

令和 6 年度 浜松市立県居小学校 学校評価

I 令和 6 年度の取り組み（重点項目）

＜知＞学びいっぱい	＜徳＞笑顔いっぱい	＜体＞元気いっぱい
「自分の考えをもち、主体的に活動できる子の育成」 ○主体的に学びあう子の育成…きく力の育成、自分から進んで学び、活動する子の育成、体験的な学習や問題解決的な学習の充実 ○確かな学力の定着…基礎基本の定着、分かる授業の構築、個に応じた支援の充実、ICT活用の推進 ○心と表現力を豊かにする教育活動…「県居に学んだことを誇りに思う活動」の推進、豊かな知性と感性を伸ばす読書活動	「自分を大切にし、他を思いやる心の育成」 ○自己肯定感を育む学校生活の充実…どの子も自分らしさを発揮できる居場所づくり、道徳教育の充実 ○発達支援教育の充実…個のニーズに合わせた温かな学級づくり、保護者との連携 ○特別活動の充実…目的を意識した係・委員会活動や行事の在り方、異年齢交流の充実 ○認め合い安心できる学級づくり…いじめの未然防止・早期発見・早期対応、思いやりのある温かな人間関係づくり	「規範意識の育成と、安全意識の向上」 ○基本的生活習慣・規範意識の育成…進んで気持ちのよいあいさつができる子の育成、「県居っ子の生活」に基づいた生活ルールの定着 ○体力の向上…運動することの楽しさや喜び、達成感を味わう学習活動、事故・けがの防止 ○食育・保健指導の充実…主体的な健康の維持増進、保護者と連携した食育・保健指導 ○安全意識の向上…自他の生命を守る意識を育む指導、情報モラル教育の推進

II 自己評価

○児童・職員・保護者の評価

質問項目	達成率（％）			質問項目	達成率（％）			質問項目	達成率（％）		
	児童	保護者	職員		児童	保護者	職員		児童	保護者	職員
学習に前向きに取り組むことができている。	91.3	84.7	82.4	お互いの良いところを褒めたり、認めたりできている。	88.9	87.9	100.0	運動をすることは好きである。	89.7	86.0	94.1
自分の考えを相手に伝えたり、先生の話や友達の発表を最後まで聞いたりすることができる。	92.1	77.7	76.5	クラスは安心して過ごすことができる。	85.7	90.2	94.1	事故やけがに気を付けた生活が送れている。	88.1	87.0	64.7
授業の内容がわかる。	96.8	87.0	100.0	道徳の授業では自分の考えをもつことができている。	92.9	91.6	76.5	健康について（早寝・早起き・ごはん・歯磨き等）家の人と話をしたことがある。	77.8	97.2	47.1
毎日決められた時間（学年×10分）、家で勉強をしている。	81.0	68.8	58.8	係や委員会の仕事に前向きに取り組んでいる。	94.8	92.1	94.1	健康について（早寝・早起き・ごはん・歯磨き等）自分で意識して生活をしている。	85.3	81.4	82.4
クロムブックを活用して学習に取り組んでいる。	89.3	76.7	88	縦割り活動（清掃や遊び）や行事（遠足や運動会）などで他の学年の友達と交流ができている。	94.0	86.5	100.0	食べる量や栄養のバランスを考えて食事をしている。	83.7	75.8	76.5
和歌作りや朗読は県居小の自慢だと思う。	88.1	80.5	100.0	学級活動の時間に話し合いができている。	90.1	82.8	76.5	避難訓練や防災ノートを活用することで安全への意識を高めることができている。	90.9	92.6	100.0
「読書のいずみ」の本を読んでいる。	62.3	66.0	59					パソコンやインターネットの正しい使い方について理解している。	94.8	66.5	82.4

○いじめに関するアンケート（児童）

I 学校は楽しいですか（令和5年度）

楽しい	たいだい楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
64%	28%	7%	1%



I 学校は楽しいですか（令和6年度）

楽しい	たいだい楽しい	あまり楽しくない	楽しくない	わからない
62%	26%	2%	1%	9%

III 分析・考察・改善案

＜アンケートより＞ ・ほとんどの項目で80％を超えていたことから本校の取り組みが適切に行われていたと考えられる。 ○学習習慣の定着が課題である。各家庭に配布してある「家庭学習の手引き」を確認し、保護者とも協力して改善を図っていきたい。
＜学力・学習状況調査の結果より＞ ・算数は全国平均と同程度、国語は全国平均をわずかに下回る結果だった。 ○多くの条件を満たす文を作文したり、式から具体的な場面をイメージして問題を解いたりする力に課題がある。授業の中で課題につながる問題を計画的に取り入れていきたい。
＜いじめ防止基本方針より＞ ・「県居小いじめ防止基本方針」に基づいて対応をすることができた。 ・学校が「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答する児童の割合が激減した。 ・引き続き、児童の意欲を引き出す学級経営、学校経営に取り組みたい。

IV 学校運営協議会による学校関係者評価

＜アンケートについて＞ ・あいさつについて課題が感じられる。「気持ちの良い」あいさつとはどのようなものか、考えさせたい。 ・道徳で学んだことを実践できるかどうかが重要である。そのためには家庭での支援が必要になるので家庭にも学習したことを伝えていく必要がある。
＜学力・学習状況調査の結果について＞ ・成果や課題を分析しながら授業に取り組んでいることが分かった。
＜いじめ防止基本方針への取り組みについて＞ ・学校が「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答する児童が減ったのは学校の取り組みの成果だと感じる。 ・支援学級児童が「わからない」と回答しているため、しっかりと説明をして回答させるようにしたい。
＜全体＞ ・学校運営協議会の資料の準備などで先生方の多忙化が進んでいないか心配している。 ・運動する機会が減ったことで、けがが増えているのではないかと思う。 もっと体を動かす機会を意図的に作成するのがよいのではないか。

V 今後の改善方策

＜アンケートについて＞ ・アンケートの聞き方や回答欄をより分かりやすくし、児童が答えやすく、かつ、数値として表しやすくしていきたい。 ・道徳の時間などを活用して、「気持ちの良い」あいさつとはどのようなものか考えさせていきたい。
＜学力・学習状況調査の結果について＞ ・児童の課題を全職員で共通理解し、各学年の実態に合わせて指導していきたい。 ・読み取ったことや自分の考えを作文する機会を増やしていきたい。
＜いじめ防止基本方針への取り組みについて＞ ・今後も「いじめ防止基本方針」を基準にして、いじめの早期発見、早期解決を目指し、被害者の立場にたって取り組みを進めていきたい。